

資料名「あきらめない」

テーマ（自他の生命を尊重する心を育てるための工夫）

学校名（ 呉市立呉中央小学校 ）

1 学 年 第5・6学年

2 主題名 生命の尊さ 3－（1）

3 ねらい 山下君が、どんなにつらい状況でもあきらめなかった理由を考えることを通して、生きることの喜びや生命の重さについて知り、力強く生きようとする心情を育てる。

4 資料名 「あきらめない」（自作資料）（出典『あきらめない』山下 貴大：著）

5 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	留意点（☆評価の観点）
導 入	1 「あきらめない」という本について知る。	○ この「あきらめない」という本の作者は、五番町小学校の卒業生です。 ・ ぼく達の先輩だ。 ・ どんなことが書かれているのかな。	○ 山下君が本校（五番町小学校）出身であることを知らせ、資料をより身近なこととして考えられるようにする。
展 開	2 資料を読んで、山下君の気持ちについて話し合う。	○ 白血病と告げられたとき、山下君はどんなことを思ったでしょう。 ・ もう、死ぬかもしれない。 ・ 何とか病気を治したい。 ○ 広島に帰る新幹線の中で、山下君はどんなことを考えていたでしょう。 ・ ぼくの病気は、これからどうなるのだろう。 ・ 病気に負けないで頑張りたい。 ◎ 山下君は、なぜこんなにも強く「あきらめない」という強い気持ちをもつことができたのでしょうか。 ・ 家族の支えがあった。 ・ 病気に負けなくなかった。 ・ 自分の人生をしっかりと生きてかった。	○ 母親の行動を押さえることで、絶望的な気持ちになりながらも、負けたくないという気持ちもあることをつかませる。 ○ 山下君が好きな曲をかけることで、山下君の心情に迫ることができるようにする。 ○ 補助発問として「何をあきらめなかったか。」を問うことで、思考を生命尊重に焦点化できるようにする。 ☆ 山下君がどんなにつらい状況でも、強い気持ちをもつことができた理由を考えることができる。 （ワークシート・発言）
	3 山下君のお母さんのメッセージをビデオで見る。	○ 山下君のお母さんのビデオメッセージを見てください。 ・ 命を大切にしたい。 ・ 山下君のようにしっかりと生きていきたい。	○ お母さんや山下君の気持ちを知ることで、よりよく生きようとする気持ちをもてるようにする。

<p>終 末</p>	<p>4 「私たちの道徳」P.98 を読み、感想を書く。</p>	<p>○ 「私たちの道徳」98ページを読みま しょう。 ・ 一日一日を一生懸命生きていきたい。</p>	<p>○ 「私たちの道徳」の詩を 読むことで、改めて生きる ことの喜びや生命の重さ を感じ取らせるようにする。 ☆ よりよく生きようとする 気持ちをもつことができ る。 (ワークシート)</p>
----------------	--------------------------------------	---	---

活用に向けたポイント

1 児童の実態

本校の児童は核家族が多く、生命の有限性やかけがえのなさを実感したり、理解したりする機会が乏しくなりつつある。生命は大切であるということは分かっているが、「限りある生命を力一杯生きる」という意識にまでは至っていない。

また、「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」というアンケートでは、96%の児童が肯定的な回答をしているが、時に相手を傷つけるような言動、思いやりに欠ける行動も見られる。

2 教材開発及び指導過程の工夫

- ・山下君が本校の卒業生であることから、子供たちはより身近な存在の人の生き方として受け止めることができる。
- ・「私たちの道徳」P.98の詩を読むことにより、生きることの喜びや生命の重さを感じさせたい。
- ・終末において、山下君のお母さんからのビデオメッセージを見ることにより、これから自分なりによく生きていこうとする気持ちをもたせたい。

3 発問の工夫

中心発問においては、3度もの大きな病気に見舞われながら、それでも強い気持ちをもつことができた理由を話し合うことにより、「生きる」ことの素晴らしさや力強く生きていくことの大切さに気付かせる。

「なぜ、ぼくだけが・・・。」という絶望的な気持ちの中、それでも自分の人生をしっかり生き抜いた山下君の生涯から、これからの自分自身の生き方についても考えさせたい。

4 児童の反応

山下君が強い気持ちをもつことができたのは、

- ・大好きなバンドの歌が支えになっていたから。
 - ・医者になりたいという夢があったから。
 - ・お母さんの支えがあったから。
 - ・友達の応援があったから。
 - ・いろいろな人に支えてもらったから、いつか自分も誰かの支えになりたいと思ったから。
 - ・家族みんなの笑顔があったから。
 - ・生きたいという強い信念があったから。
 - ・いつか自分の人生が幸せだと思える日を夢見ていたから。
- と答えた。

児童は、家族や周囲の人々の励まし、大好きな歌、自分の夢を支えとして、たくましく生き抜いた山下君の強さを感じ取っていた。

5 活用に当たってのポイント

- ・山下君が本校の卒業生であることから、児童は、資料の内容を自分の身近な出来事として受け止めることができた。
- ・山下君のお母さんのビデオメッセージを見ることにより、今生きていることが当たり前ではなく、とても尊いものであることを感じ取ることができた。
- ・中心発問の前に補助的な発問として、「山下君は、何をあきらめなかったのだと思いますか。」と問うことにより、児童の思考を生命尊重に焦点化することができ、ねらいに迫ることができた。

ぼくは広島で生まれた。

幼稚園を卒園後、ぼくは母の実家のある呉に引っ越した。そして、小学校に入学したのだが、当然みんな知らない人ばかり。休けい時間にドッジボール、竹馬、一輪車なんかをする人たちに声をかけることができず、一人さびしく校庭を歩いていたのだが、なぜか周りの同級生たちが近づいてきて仲間に入れてくれるようになった。日に日に学校生活になれてきて、放課後は友達と野球やゲームをして遊んだ。小四の時にはもうクラス一の人気者になり、みんなを笑わせる係になっていた。

小五の冬のことだった。何気ない授業中、ぼくは頭に何かしめつけられるようなはげしい痛みを感じた。教室を出てハンカチをぬらして頭にあてて、放課後までがまんした。はき気と頭痛で苦しみながら帰宅したぼくを見て、家族はとても心配し、近くの病院に連れて行った。検査の結果、もっと大きな総合病院に行くことをすすめられ精密検査を受けると、医師から告げられた病名は脳腫瘍だった。

最初は、なぜぼくだけこんな不幸なんだと思ったが、手術で腫瘍をてき出すことで元気になれば問題ないと思えるようになってきた。

すべての腫瘍をてき出した後は放射線治療と化学治療をおこなった。副作用で吐き気、食欲不振、脱毛に苦しめられた。学校の友達に会えず、とてもつらかったが、担任の先生がお見舞いに来てくれて、

「みんなが、『病気に負けないようがんばれ』とメッセージを書いてくれたよ。」

とメッセージカードを届けてくださった。ぼくは、

(一人じゃない。みんなの応援に答えるためにもがんばろう)

と思い、涙がこぼれそうになった。

脳腫瘍の治療が一年以上続き、治療を終えて退院できたときには、もう小学校の卒業式目だった。

卒業式は、ぶっつけ本番。

友達が、

「次は、卒業証書を取りに行くよ。」

「歌を歌うから、立つよ。」

と、こっそり教えてくれた。式が終わって、大切な友達みんなと記念撮影をした。そのときぼくは、

「将来は、病気の子どもの気持ちの分かる医者になりたい。そのために、学校に毎日行って、勉強を頑張りたい。」

と強く思った。

中学校では、勉強や運動に集中し、学校行事でも友達と楽しい思い出を作ることができた。

高校一年生になった冬のある日、何を食べてもはいてしまうという出来事があった。病院でたくさん
の検査を受けて、大腸がんという病名を聞かされたときはがくぜんとした。

病院の先生は、治療方法をぼくにも分かるように説明してくださった。

「手術の後、長い治療が続くけど、一緒に頑張ろう。」

と言われた。スタッフに励まされながら、治療を続けたおかげで、頑張って学校に行くこともできた。

しかし、高三のセンター試験（大学の試験）直前の冬のある日、鼻血が止まらなくなり、病院に行っ
た。

病院の先生は、

「今までも治療を頑張っていますが、急性リンパ性白血病です。」

と言われた。ぼくはあ然として言葉を失った。こんなに頑張っているのに、神様はまだぼくに試練を与
えるのかと思った。でも母は、ぼくのしんどさを分かってくれて、だまってそっと寄り添ってくれた。
そんな母のためにも、ぼくは絶対に負けないと心に誓った。

その年の六月、ぼくは医師の許可をもらって、東京ドームで行われたファンキー・モンキー・ベイビ
ーズの解散コンサートに行った。入院中はファンキー・モンキー・ベイビーズの歌が心の支えになっ
たので、解散すると知っていてもたってもいられなかった。いつもは冷静なぼくだが、その時はタオル
を振り回し、大声で歌った。忘れられない最高の六月二日になった。広島へ帰る新幹線の中で、ぼくは
絶対にあきらめないと心に決めた。

ぼくの行く手には、長く暗いトンネルのような白血病という現実が待っている。今もまだそのトンネ
ルの出口は見つかっていない。でも、ぼくはあきらめない。ぼくの、どんな運命からも逃げないで、明
日を信じて、つらかった昨日は過去にして……。

この手記を書いた山下貴大くんは、二〇一三年十月十九日、十八歳という若さで、短い生涯をとしま
した。

『つらくても、心が折れそうでも、命のある限りあなたは生き抜いて……。』

そんな最期のメッセージを残して……。

あきらめない

名前)

(

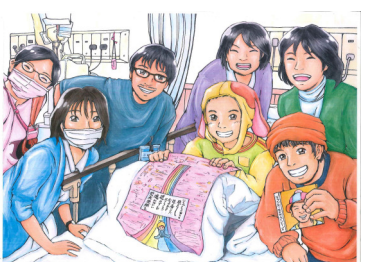
★「ほく」「は、なぜはこんなにも強く」「あきらめない」という気持ちを
もつことができたのでしよう。



A large, empty rounded rectangular box for writing.

♡ ハートちゃん金箱

山下君の生き方を学んだり、お母さんのメッセージを聞いたりするこ
とで、どのようなことを考えましたか。



A large, empty rounded rectangular box for writing.